



## 共通カリキュラム構築プロジェクト 飯田フィールドスタディ環境コースの報告

平岡 和久      福島 茂      銭 学鵬  
(立命館大学)    (名城大学)    (立命館アジア太平洋大学)

飯田市・2014年1月25日

### 飯田フィールドスタディ 環境コース(地域環境政策FS)の紹介

I 目的:「環境モデル都市の取組及び多様な主体の実施体制を学習する」

#### II 概要:

1980年以降世界で使われる「持続可能性」の概念を学び、実際のまちづくりにこの概念がどのように取り入れられているか、または概念と現実にとどのようなギャップがあるかを理解すべきである。飯田市は日本の環境モデル都市として、「環境首都コンテスト」で3年連続10位以内の評価を受けている。様々な実績を持つ飯田市の環境取組・環境政策を学習し、さらに、市民と民間団体、事業者など多様な主体が環境取組・活動の実施に積極的に参加・協力する実態を調査する。

## 飯田フィールドスタディ 環境コースの到達目標

1. **研究計画能力**: 環境とまちづくり、計画と実施の関係を理解し、各自の課題に対しての問題発見と提案できるようになること
2. **「理論」と「実践」の融合**: フィールドワークにより研究を進める方法を身に付けること: 効果的効率的調査計画を立てること、現地での専門家講演や聞き取り調査、アンケートからファストハンドの情報を得ること、文献資料と現地調査の情報を用いて自分の論点を論述すること
3. **「インターディシプリナリー」**: 他大学学生とのコミュニケーションを通して、多様な視点から環境問題にアプローチすること、各専門の教員の指導を受け、学際的視野を広げるようになること

## 飯田FS環境コースでの学びアプローチ

1. 理論(大学教員による講義と指導)
2. 実践報告(ゲストスピーカーによる)
3. フィールドワーク(グループ別現場体験)
4. アンケート調査と分析(調査表の準備と単純集計分析): 環境省「環境にやさしいライフスタイル実態調査」比較項目と各テーマの調査項目について街道アンケート調査、10部/1人
5. ワークショップ・総合セミナー
6. 事後レポート作成

**環境のために、環境モデル都市の現場で、環境取組を環境専門家から学ぶ**

# 飯田FS環境コース

立命館大学 (5名)  
 名城大学 (7名)  
 立命館アジア太平洋大学  
 (13名:内留学生8名)

## ※グループ概要

1班…産業界の取組(地域ぐるみISO研究会、マイクロ小水力)

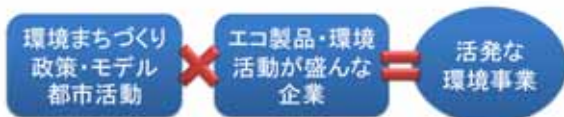
2班…エコライフの実践(持続可能な地域社会)

3班…再生可能エネルギーの普及促進(おひさま進歩の取組)

日程	内容
1日目 8月9日(金)	趣旨説明・オリエンテーション 1 環境政策概論 講師: 銭 学麟 氏 (立命館アジア太平洋大学准教授) 2 環境モデル都市「飯田市」の取り組み 講師: 佐藤 寛也 氏 (飯田市役所地球温暖化対策課) 農家民泊(農家との交流、農村生活の体験、ヒアリング)
2日目 8月10日(土)	3 基調講義「文化経済自立都市・飯田への挑戦」 講師: 牧野 光朗 氏 (飯田市長) 4 フィールドスタディ: 桐林環境産業公園 4-1 (株)アース・グリーン・マネジメント 講師: 代田 勇 氏 (アース・グリーン・マネジメントリサイクル推進室長) 4-2 エコトピア飯田(株) 講師: 櫻井 善実 氏 (エコトピア飯田代表取締役社長) 5 エコハウス風の学舎の説明 講師: 中島 武津雄 氏 (いいだ自然エネルギーネット山法師理事長) 6 アンケート調査打ち合わせ(教員指導) 地域交流(りんごん踊り)
3日目 8月11日(日)	7~9 循環型社会を目指すおひさま進歩エネルギーの取り組み 講師: 原 亮弘 氏 (おひさま進歩エネルギー代表取締役) 7~9 持続可能な地域社会を目指す取り組み 講師: 中島 武津雄 氏 (いいだ自然エネルギーネット山法師理事長) 7~9 1 地域ぐるみ環境 ISO 研究会による環境改善の取り組み 講師: 沢柳 俊之 氏 (地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局) 7~9 2 マイクロ小水力発電実証事業によるビジネスモデル 講師: 逸見 次郎 氏 (南信州・飯田産業センター環境産業支援コーディネーター) 10-11 アンケート調査 12 アンケート分析とグループ討論会
4日目 8月12日(月)	13 総合発表会準備 14 グループ別総合発表

## グループ1：環境活動に対する住民参加について

### 市政と企業



- ・ 飯田市は「環境首都コンテスト」で5年連続5位以内
- ・ 環境モデル都市としてさまざまな活動
- ・ 防犯灯や小水力発電機の共同開発
- ・ エコ事業を行う企業の集まったエコタウン

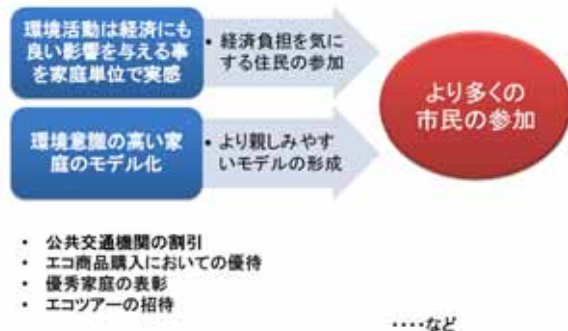
解決策1 市民のエコ意識が高いにも関わらずエコ行動に至っていない



解決策2 ISOという言葉の認知度の向上と、家庭での環境活動の支援



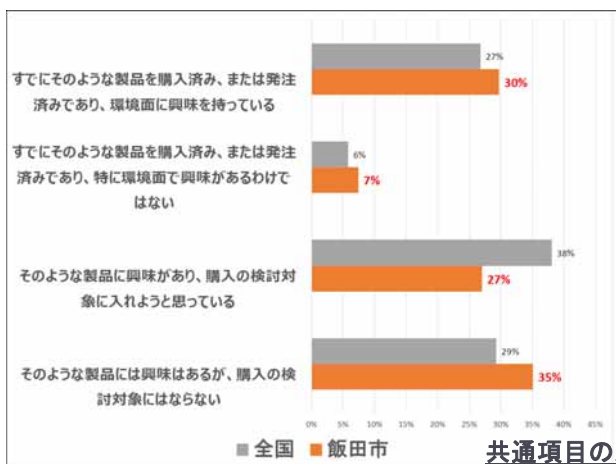
### 評価ごとに特典の付与



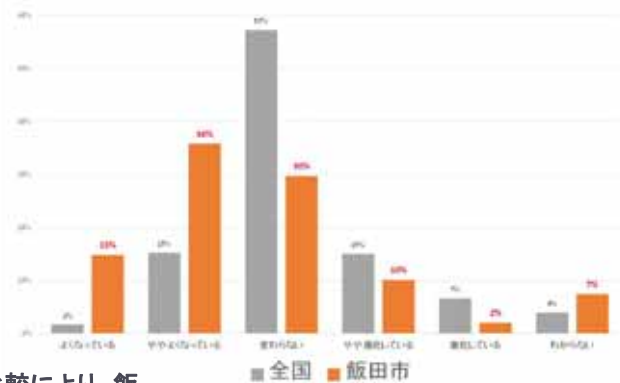
- ・ 公共交通機関の割引
- ・ エコ商品購入においての優待
- ・ 優秀家庭の表彰
- ・ エコツアーの招待

……など

## グループ2：エコライフの実践について



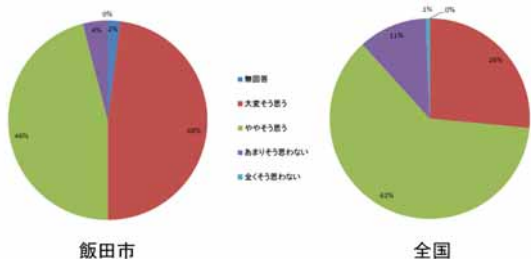
あなたは近年の地域レベルでの環境状況についてはどのような実感を持っていますか？



共通項目の比較により、飯田住民環境意識が高い

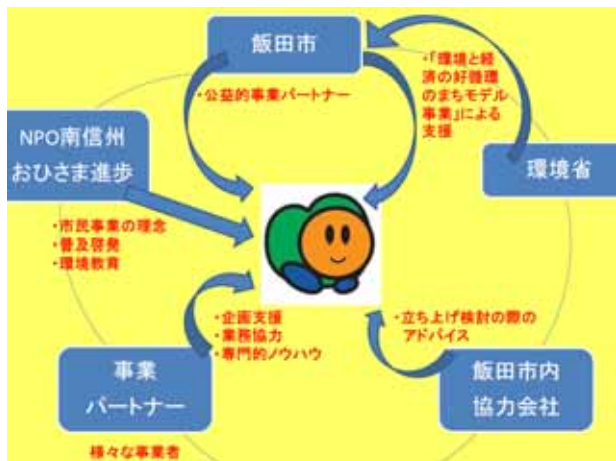
地域の人たちが協力して、その地域の環境保全活動に取り組むことは地域のコミュニティの活性化にもつながるので重要である

体験型の環境教育・環境学習に参加する

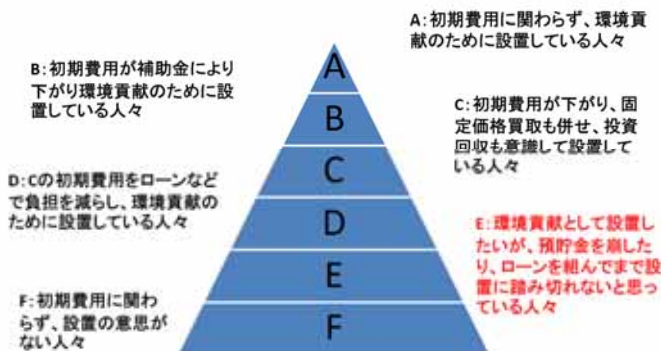


全国が「大変そう思う」「ややそう思う」の割合が16%であったのに対して、飯田市は72%と4.5倍となり環境学習に参加する人が多い。

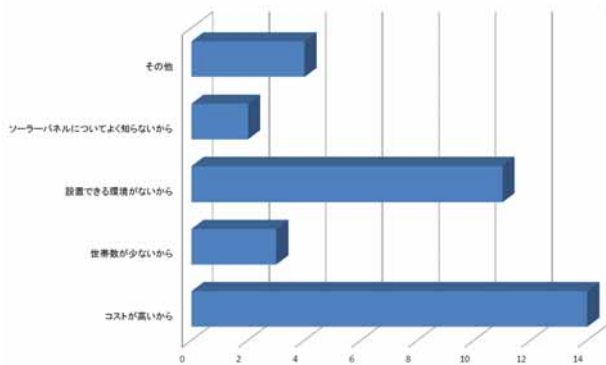
## グループ3：再生可能エネルギーの普及促進について



普及が広がらない、E層を意識した制度



ソーラーパネルを設置していない理由



まとめ

④より、環境意識は高い  
↓  
コストダウン、認知度上昇、技術革新が課題  
↓  
解決次第で  
普及率が今後、飛躍的に伸びる可能性も十分にありえる

## 学生からのフィードバック（１）

---

- ▶ 短期間の調査で提言をすることはなかなか大変だったが、他の大学の人たちと議論し、考えることができたのはいい経験になった。
- ▶ アンケート結果や講義を基に提言を提示するまで完成させることができたということはとてもよい経験になったと思う。
- ▶ 住民参加による地域活性化を環境活動の側面からも見ることでより多面的に見ることができるためフィールドスタディに参加したことは非常によい経験だと思った。
- ▶ アンケート調査は初めての経験でしたのでわからないことばかりでしたが自分たちで考えた質問を市民に街中でアンケートをするということは非常にいい経験になり、アンケートだからこそわかることやアンケートの問題作りの難しさがあることを知ることが出来ました。



## 学生からのフィードバック（２）

---

- ▶ 農家民泊は初めての体験でしたので、とても楽しみにしていたプログラムの一つではありましたが、予想以上に楽しく、充実した一泊でした。特に、自然豊かで開放的な環境が印象的でした。
- ▶ 「地育力」といわれるだけあって、飯田育ちの生徒たちの傾聴力、質問力など、学ぶ姿勢は私も見習うべきだなと背筋の伸びる場面もありました。
- ▶ りんごん祭りに参加したり、アンケート調査を市民に行ったりと、直接市民との交流が出来たことで、座学では学べないことも多くとても良い経験となった。
- ▶ 実際に現地や現場の生の声を聴くことで、今までの自分の見方が大きく変わるのだと実感した。
- ▶ 風の学舎に2泊した。様々なエコシステムを体験することでその中で取り入れやすいものものなど知ることができた。



## 学生からのフィードバック（3）

---

- ▶ ペットボトル、新聞古紙のリサイクル工場である2社を見学し、今地球全体が抱えている環境問題に対して、ビジネスとして解決に向かう方法に感心した。
- ▶ 人生はじめて「流し素麺」を食べさせてもらい、その一泊を通じて日本の温かい情を感じることができた。
- ▶ 日本の大学の優秀な学生たちと一緒に勉強するのは貴重な経験になりました。
- ▶ りんごん祭りに参加できた。踊った際町中の人々が私たちに笑顔で声を掛けてくれて、温かい街だなと感じた。
- ▶ 飯田市は、森林保有率は84%と高く、また実際に現地では太陽光発電普及への取組み、ゴミの細かい分別などを、直接見て実感してきた。
- ▶ 体力・精神力ともにあらかじめ鍛えておく必要があると思った。

## 飯田フィールドスタディ（環境）の成果

---

● 牧野市長による講義、環境政策講義、飯田市環境政策の取組、環境企業・環境関連市民活動視察、市民のアンケート調査など包括的なプログラムがつくられ、環境政策について立体的に学ぶことができた。参加学生は座学にはない、知的体験と能動的な学習ができた。特におひさま進歩や風の学舎などのNPOあるいはNPOから発展した事業者の取り組みは学生のテーマに即したものであった。また、仮説設定を行い、それをアンケートで検証するという調査研究のプロセスを経験できた。

● 3大学との合同FSは、良い意味での緊張感があり、また参加学生からの刺激を受けることができる。南信州フィールドスタディの魅力となっている。今年度は立命館APUの留学生が多く参加しており、異文化体験もできた（留学生の主張の強さに驚き、自分の意見がなかなか通らず悔しい思いもしたようだが、相手を説得するだけの力が自分に必要であることを理解したようだ）。

● 農家民泊、五平餅づくりなどの体験、風の学舎での宿泊、りんごん・まつりへの参加など、飯田ならではの体験型学習ができた。農家民泊、りんごん・まつりの学生の評価は高い。

● 地元高校生の報告会への参加は、外から来た学生の安易な結論付けに対する批評もあり、学生も自分たちの提案を見つめなおす機会を持てた。

## 飯田フィールドスタディ（環境）の課題

### ●プログラムの改善

①多様な学習による内容の多様性があるため、短期間で共通のポイントを発見し、課題を形成し、集中分析することはハードル高いものであった。プログラムが詰め込まれすぎており、学んだことやアンケート調査の分析結果を十分に咀嚼し、提案を練ることを難しくした。とりまとめの時間の少なさは、グループによっては分析・提案において特定の学生への依存につながった。今回教員がサポートできたことがこの困難さを緩和したが、今後はプログラムに余裕をもたせるとともに、事前に関連者と課題仮説について議論調整したほうがよいかもしれない。

②多様な背景を持つ学生をグループすると共に、意見のまとめにも相当な時間がとられた。今後、事前学習は各自実施するより、テレビ会議やSNS等を活かして、グループワークを早めに行ったほうがよいと考えられる。

### ●共通カリキュラムのソーシャルキャピタルFSとのつながり

リサイクル活動など住民参加型環境取組はソーシャルキャピタルの典型事例として研究されている。今後、このような共通事例を中心に、共通カリキュラムの中の導入科目と展開科目の関連性を意識しながら、学生の学習課題を設計したほうがよいと思われる。

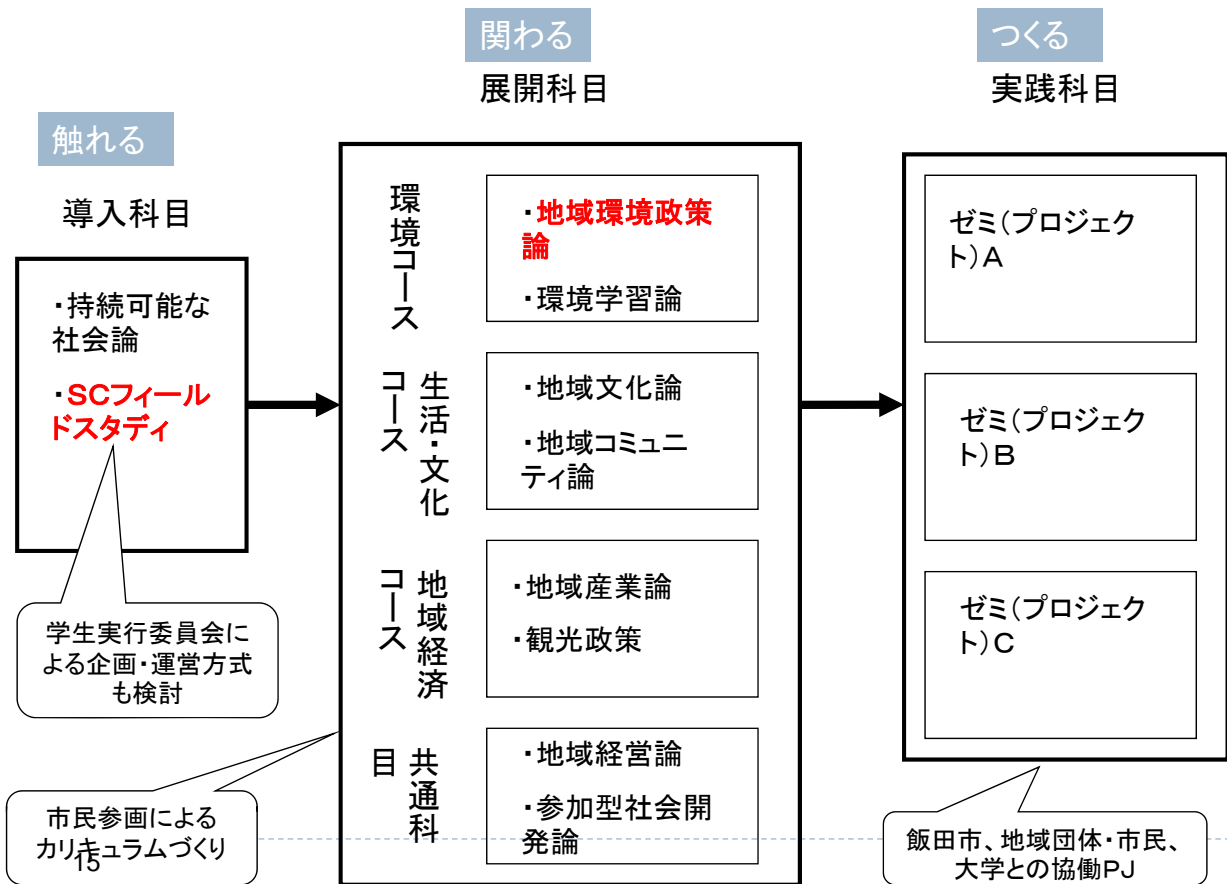
### ●来年度に向けて、地元高校生との合同フィールドスタディの検討

地元高校生も参加するフィールドスタディは、外からの目だけでなく、地元の目からの評価を入れながら、お互いに刺激になるプログラムになりうるのではないかと。

## 今後の検討課題と計画

- ▶ 今年3年目であり、引き続きモデル授業による実験を蓄積する
- ▶ 展開科目について、歴史・生活・文化、経済・産業、地域経営といった領域でモデル授業を計画・実施する
- ▶ 実践科目として、プロジェクト型の授業を計画・実施することを検討する
- ▶ 実施大学・教員を募集し、夏および春での実施を検討
- ▶ 1年目のソーシャルキャピタルFS、2年目の地域環境政策FSの実践を元にしたテキストづくりを検討する
- ▶ インターンシップ科目の検討
- ▶ 講義の一部をインターネットで公開することを検討

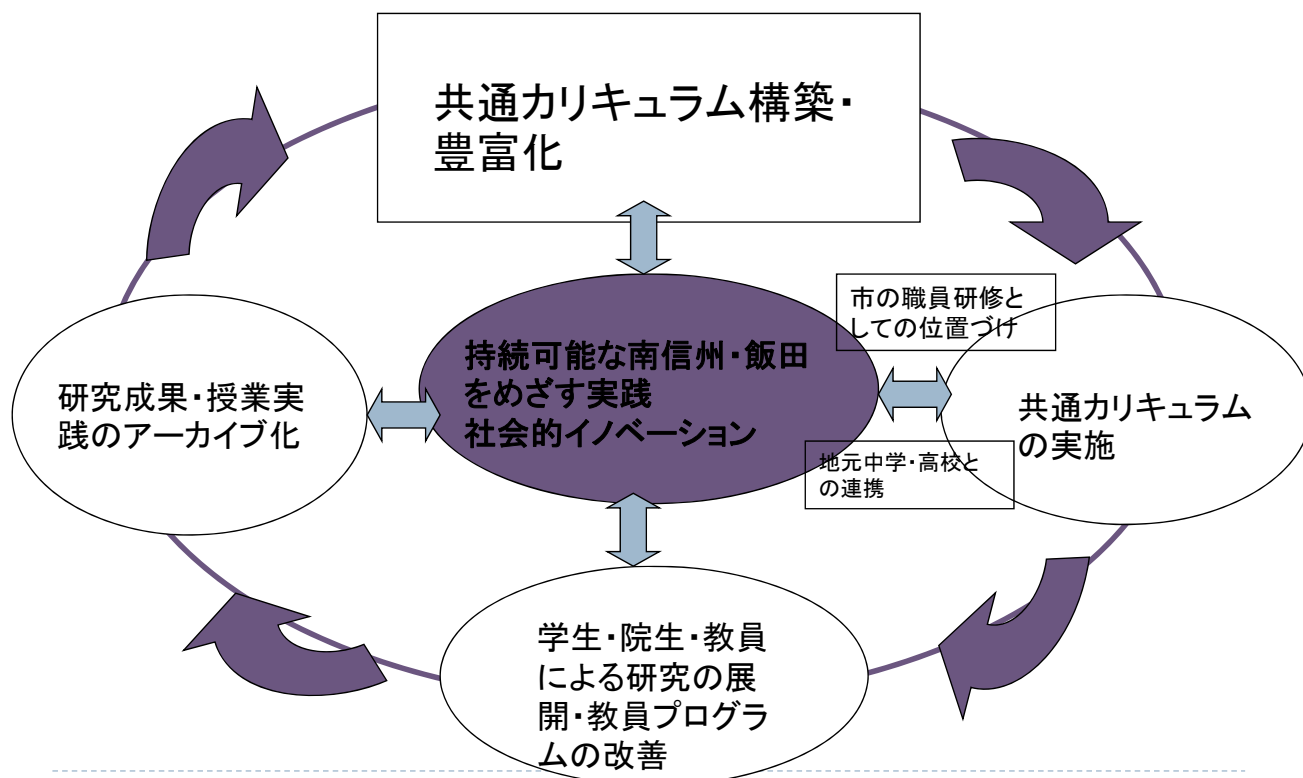
# 共通カリキュラムのイメージ例



## 今後の検討課題と計画

- ▶ 研究者の論文だけでなく、授業実践や学生・院生のレポート・論文をアーカイブ化することを検討。データベース化した講義等の活用も検討。
- ▶ 地元の高校、中学などとの連携を検討
- ▶ 共通カリキュラムを職員研修としても位置づけることを検討
- ▶ 英語基準留学生向けのプログラムの検討
- ▶ 共通カリキュラムの実現に関わる課題の検討
- ▶ ギャップタームやクウォーター制をもとにした制度設計の検討

# 学輪IIDA共通カリキュラムと研究蓄積の循環イメージ



▶ 17



グローバルに考え、ローカルに行動する  
Think Global, Act Local

ご清聴ありがとうございました。